道志小学校　令和のやまなし教育活動モデル事業　実践報告⑤「自立的学習を支える児童の自己肯定感の醸成」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施年月日 | 令和６年１１月７日（木） | 実施時間 | １時間（低高学年） |
| 実施形態 | 模範授業の実践 | 講師 | 教育実践家菊池省三先生 |
| 実施のねらい児童が自立的に学習を進めるには、自己肯定感を高め、自分の意見や考えを積極的に表現する意欲の高まりが土台となる。そのためには児童の主体性を引き出すための学級経営の手法を教師が学び、日常的な指導の充実を図る必要がある。教育実践家である菊池省三先生は、「ほめ言葉のシャワー」など、具体的に児童が他者から認められる数々の教育実践を行うことで自己肯定感を高める成果を上げており、若手教員には学び目的として実践した。環境を充実させる目的で実施した。 |
| 活動の概要菊池先生には、低学年（１～３年）と高学年（４～６年）を対象に道徳の授業実践をしてもらい、児童が前向きに発言できるようになる授業の進め方や児童への声のかけ方等の実際を模範として示してもらい、職員研修として実践した。 |
| 実施によって得られた成果　　（成果）児童が実際の授業の中で前向きに自分の考えや気持ちを表現する経験をすることができ、参観した教職員に具体的な手法を学ぶ機会となった。〇児童が学習に集中し、友達の意見をしっかり聞くことによって、互いに肯定的評価を伝え合う場の作り方○板書の使い方や拍手の仕方など、教師の意図が児童に伝わりやすく児童の気持ちを高める指導方法。〇児童が常識的に考えていることを覆すような発問と考え方を示すことで日常の教室と違った逆転現象を生み出す授業づくり。 |

|  |
| --- |
| 児童からの感想　・いつも自分の意見を言うのに恥ずかしかったけれど、みんなの前で で発表できて嬉しかった。・・友達の発表に真剣な拍手を贈ることは、拍手をされた人から見る　 とやる気になると思う。自分も拍手をされて嬉しかった。・・面白いテーマの勉強で楽しかった。普段、あまり意見を言わない人も発言していた。　・問題を考えることが楽しいと感じた。自分も意見を言ってみたいと思った。　 |
| 職員からの感想　・児童が前向きに発言できる具体的な授業の進め方や雰囲気づくりについて学ぶことができた。　・授業規律を作りながら児童を集中させ、友達の発表もしっかりと色 聴く姿勢を作るテクニックを見せてもらった。今後の授業づくりに生かしたい。と･児童が自分の持っている考えとギャップを感じるような発問や投 げ掛けを工夫することの大切さを学んだ。･一人ひとりの児童のことを大切に扱い、必ず何かしらのよい点を見つけて評価する姿勢が必要だと感じた。 |